



代表取締役社長

佐野 健一

創立70周年を迎えて

1950(昭和25)年2月27日、野村鋳業株式会社の製薬部門から独立して誕生した当社は、今年、創立70周年を迎えました。当社創立の時期、日本は戦後の深刻な食糧難に直面しており、食料の安定供給に資することが当社の社会的使命であるという強い思いを持って農業事業の拡大に努め、その後も「企業活動と環境との調和」という創立以来の基本的な考え方を忘れることなく農業事業に邁進してきました。

今日、農業事業においては、世界の農業に貢献し得る農業を開発するなど、その技術力・開発力については、国内外で高くご評価をいただいています。また、グリニャール反応をはじめ農業開発で培った化学合成技術を応用することで、ファインケミカル事業への進出も果たし、現在では多様な産業分野へ高品質のファインケミカル製品を多数提供しています。

今後とも、“農業製品・ファインケミカル製品の社会への提供を通じて、全ての人々を幸せにする”という当社の企業理念にあらわされる志をしっかりと継承しつつ、次なる100年、200年に向けて、着実に歩んでいきます。

当社グループは、長期的な成長イメージとして近い将来に目指す企業規模のターゲットを売上高500億円、経常利益50億円と定め、その実現に向けた第一歩として2018年度から2020年度までの3ヵ年経営計画「HOKKO Growing Plan 2020」を推進しています。

2019年度は、岡山工場での新工場の建設、村田長株式会社の完全子会社化などに取り組みしました。その結果、売上高は2018年度比で増加、経常利益は過去最高益となった2018年度より減少したものの、2018年度に次ぐ実績となりました。特に、当期純利益は2018年度まで5期連続での最高益を更新するなか、自己資本比率も着実に向上させることができました。2020年度は、「HOKKO Growing Plan 2020」の最終年度となります。2020年度の目標達成に向け、取り組みを推進していきます。

そして、この成長を長きにわたり継続していくためには、「コーポレート・ガバナンス」および「レスポンシブル・ケア活動」の充実が大前提となります。当社グループは、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上のため、ステークホルダーとの協働や高いコンプライアンス意識の維持に取り組んでいます。また、化学企業においては、「安全」と「環境」が製品の開発から製造、物流、使用、廃棄に至る全ての過程において確保されていることが必要です。当社グループは、レスポンシブル・ケア活動の実践を通じて、「環境・安全・健康」の継続的改善を進めていきます。

ステークホルダーの皆さまには、本レポートを通じて、当社グループについてご理解を深めていただくとともに、今後の活動に向け、皆さまからの忌憚のないご意見を賜ることができれば幸いです。

2020年5月

*レスポンシブル・ケア活動：化学工業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動を展開しています。この活動を「レスポンシブル・ケア(Responsible Care)活動」と呼んでいます。本レポートでは、「レスポンシブル・ケア」を略して、「RC」と表記することもあります。

■企業理念

「社会貢献」「環境」「技術」を経営のキーワードとし、全ての人々の幸せのため、食糧の安定供給に寄与する安全で安心な農業製品および産業活動を幅広く支えるファインケミカル製品を社会に提供していきます。

■経営の基本方針

『企業理念』の実現に向け、立案した事業計画を着実に実行することにより、持続的かつ安定的な成長を実現し、国内外の産業の発展と豊かな社会づくりに貢献します。また、取締役会を中心とした経営の自己規律のもと、中長期的な企業価値の向上を図るとともに、社会に信頼される企業であり続けます。